

信州教師塾B 第3回 「作文力」

～出来事や情報を整理し、文章で表現する～

2月17日（木）に「信州教師塾B」の今年度最終研修会が行われました。まん延防止等重点措置適用に伴い、参集はできませんでしたが、オンライン配信により受講生40名は各学校から研修することができました。

今回は、出来事や情報を整理し、文章で表現する「作文力」をテーマに、市川朝教様（信濃毎日新聞読者センター次長）を講師にお迎えしました。



市川朝教 様

研修では、実際に以下の文章を書いてみました。

上伊那郡内の教職員32名は、2月17日、各校でZOOMを用いて「信州教師塾B作文力講座」を受講した。分かりやすい文章を書くために、新聞記者の話を聞いたり、記事を読んだり実習をしたりした。書いた文章は、一度時間を置いて読み直すと良いということがわかった。

文章を書くときには、次の3つのことを意識すると良い。1つ目は伝える相手を意識することだ。外来語や、難しすぎる言葉を使いすぎないことが大事である。2つ目は、1つの文で伝えることは1つにすることである。その際、なるべく短い文（50語程度）を心がけることが必要である。3つ目は、修飾語と被修飾語の位置に注意することである。例えば「白い紙」「厚手の紙」「横線の引かれた紙」の3つの修飾語を「紙」にかける場合、「白い横線の引かれた厚手の紙」としてしまうと、「白い横線」が引かれた紙であるという誤解を与えてしまう。この場合では、「横線の引かれた厚手の白い紙」などとすることによって、正しい情報を伝えることができるのである。

市川様のお話にあった「新聞記者の視点での文章構成のポイント」は、保護者へのお便りなど文章を用いて保護者にお伝えすることの多い私たちにとって、明日に生かせる内容でした。

《 受講者の感想と研修の様子 》

書いた文章が正しいのかどうかチェックできないのが、少しもどかしい気持ちでした。チャットで自分が書いた文章を送るなどさせていただいてもよかったかもしれません。

しかし、私はこの第3回の研修に最も興味があって受講したので、このような状況下で開催していただき本当にありがたく思っております。ありがとうございました。

分かりやすい文章構成について、一つ一つ丁寧に教えていただきました。自分は学級通信でも通知表の所見でも、文が長くなりがちで、いつもすぐにとっちらかってしまっていました。

本日は特に、「主語、述語を近くに置く」「受け身表現を多用しない」「入れ子型の文章を避ける」の3点が印象的でした。実際に文を書いてみて、なかなか普段意識できていなかったと反省しました。自分の文章がなぜ分かりづらいのか、長年もやもやしていた部分がはっきり自覚できてよかったです。子どもの作文を添削する際にもそのような点を意識しようと思いました。

私は文章を書くことに自信が無く、今回この研修会に参加させてもらいました。新聞記者の市川さんから新聞を通して、読み手に分かりやすい文章の書き方を教えていただき、怖がらずに積極的に文章を書いていこうと背中を押していただきました。

1つの文章を長くしないということはよく聞きますが、実際に例を見せてもらい、演習を交えて解説してもらうことで、短い文章にしなければならない理由を実感することができました。

今後、ニュースの内容だけでなく、文章の組み立ても意識しながら新聞を読んでいきます。本日はこのような研修会を開催してくださり、ありがとうございました。

《終わりに》

今年度初めて企画された本研修会（信濃教育会共催）へ、多くの先生方にご参加いただきありがとうございました。毎回、受講生の皆様から前向きになる嬉しい感想をたくさんお寄せいただきましたことも企画・運営側の励みになりました。

次年度も3回の開催が予定されています。是非、多くの先生方にご参加いただけますようお願い申し上げます。